

江戸の坂道散策

蟬坂(北区)

蟬坂アクセス▼JR京浜東北線・上中里駅下車。改札口を出て左側に見えるのが蟬坂。坂上は日光御成道(本郷通り)だ。

J 京浜東北線の上中里駅の改札口を出た左手に、南へ上る急坂がある。左へ大きく湾曲しながら、高い石垣に沿って堂々と駆け上っている。右側に平塚神社があり、その境内のイチヨウやケヤキが大きく枝を伸ばし、この坂に緑の影を投げている。この美しい坂を蟬坂という。坂名は攻坂が転訛(音がなまる)したものだ。

鎌倉時代から石神井川流域は、豪族・豊島氏の支配下にあった。石神井城や練馬城・平塚城が豊島氏の城館だった。その平塚城があったところが、平塚神社一帯だったと推定されている。「後三年の役」(一〇八三〜八七)で奥州を平定した源義家が、その帰途、この平塚城に逗留した。平塚城主・豊島太郎近義が義家を心から歓待したので、義家はその返礼として鎧一領を近義に下賜した。近義は城の鎮護のため、この鎧を城内に埋め、この上に平たい塚を築いた。これが「平塚」の地名の起りになった。さらに近義は、義家と弟の義綱・義光の三人を祀った平塚明神(現・平塚神社)を建立し、豊島氏の守護神とした。

しかし、室町時代に入ると、豊島氏は上杉勢と対立関係になった。文明十年(一四七八)一月二五日、平塚城は扇谷上杉定正の家臣・太田道灌の猛攻撃を受けた。太田

軍はこの坂から攻めあがり、平塚城を陥落させた。ここに豊島一族は滅亡していった。このような伝承に因って、この坂は攻坂と呼ばれるようになった。やがて、蟬の字が宛てられて蟬坂に変化したのだ。初夏になると、この坂でも蟬の音が喧しくなる。その声は、まるで豊島一族の悲劇を悼んでいるように聞こえるから不思議だ。

●坂道研究家 山野 勝

一九四三年、広島県生まれ。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。報知新聞社を経て講談社に入社。「ヤングマガジン」編集長、第三編集局長、取締役、常務取締役を務めた。この十数年、東京の坂道を積極的に歩き、エッセイや講演などで坂道ブームの火付け役。著書に「江戸の坂」(東京・歴史散歩ガイド「朝日新聞出版」)、「江戸と東京の坂」(古地図で歩く江戸と東京の坂) (以上、日本文化社) がある。

コラム坂

一服茶屋

本文で紹介した源義家に関連した坂がある。渋谷区神宮前二丁目五と二の間を走る勢揃坂がそれ。青山の熊野神社の西側を北へ下る坂で、かつての鎌倉街道といわれる。

永保三年(一〇八三)、源義家が奥州征討に向かう途中、渋谷の領主・河崎重家の渋谷城に滞留した後、ここで軍勢を揃えて(整えて)出陣したというのが坂名の由来だ。従軍した武士の中に、この河崎重家の名もある。

